

## 大野市文化財保存活用地域計画策定の進捗状況について

生涯学習・文化財保護課

## 1 これまでの経緯

## ○策定協議会の実施

- ・令和元年度 2回開催（うち1回は書面開催）  
協議事項 地域計画骨子案の確認、計画書案の協議
- ・令和2年度 3回開催  
協議事項 大野市の文化財の概要と特徴、文化財の保存・活用に関する課題と方針、関連文化財群の設定

## ○文化財ワークショップ（地域住民等からの文化財情報の収集）

- ・令和元年度 2回開催（市民活動グループ）
- ・令和2年度 11回開催（公民館、集落センター）

## 2 文化庁との協議の実施

## ○文化庁ヒアリングの実施

- ・令和4年度の文化庁の認定に向けて、記載内容のポイントや、内容の指導、今後のスケジュールの確認など実施。文化庁からの指導等をあらかじめ受けておくことで地域計画の認定条件をクリアできているかを確認できる。

## ○地域計画認定の条件

- ①地域計画の実施が文化財の保存・活用に寄与すること
- ②保存・活用の事業が円滑かつ確実に実施されることが見込まれること
- ③文化財保存活用大綱に照らして適切な内容であること  
(福井県で令和2年に作成済み)

## 3 今後の予定

## ○策定協議会の実施

- ・3回実施  
協議事項 保存・活用の課題と方針に対応した措置（事業）の立案  
保存・活用の措置の実施体制の検討  
令和4年度以降に実施する具体的な事業計画の作成

## ○パブリックコメント 12月～

## ○地域計画書案の策定 2月定例教育委員会

## ○文化庁の計画書認定 申請4月、認定7月

#### 4 地域計画案の構成について

○第1章 文化財保存活用地域計画作成の目的と位置付け

文化財保存活用地域計画作成の背景と目的等について記載

○第2章 大野市の歴史文化の総合的把握

歴史的変遷、自然環境、社会環境など現状等について記載

○第3章 大野市の文化財の概要と特徴

文化財や歴史文化の特徴等について記載

○第4章 文化財の保存・活用に関する方針

歴史文化の特徴に対する保存・活用の方針と課題等について記載

○第5章 関連文化財群と文化財保存活用区域

文化財を種類や地域などで関連付けし、まとめたものを記載

※概要版はここまでで作成

※第6章及び7章は今年度作成

○第6章 文化財の保存・活用に関する措置

文化財の保存・活用の措置(事業) について記載

○第7章 事業計画

文化財の保存・活用の措置(事業) の実施計画と推進体制について記載

# 未来につなぐ大野の文化財 参考資料（大野市文化財保存活用計画（案）より）

## 大野市の文化財の概要と特徴

### 歴史文化の特徴

豊かな自然環境に恵まれた大野市には、地質時代から現在に至るまでに多くの歴史的な事象が積み重なっています。**大野市の歴史文化の特徴（＝「大野らしさ」）**とは、**多種多様な大野市の地域資源とその歴史的背景、そしてそれらを取りまく自然環境の総体**と考えられ、次の5点に整理することができます。



大野では古くから人々が生活を営んできました。中世以降は街道を通じて、人や物資の往来も盛んに行われました。また、江戸時代後期には、大野人の気風「進取の気象」へ繋がる活動が行われました。

金森長近は大野城を築城し、城下町を整備しました。大野藩の成立後も、大野城を中心に城下町が発展し、奥越地方における商工業や文化の中心地となりました。

大野では古くから山岳信仰が息づき、中世以降は様々な信仰形態も誕生しました。今も多くの寺社が分布し、大切に守られています。まちや村では、豊作や安全を思う中から生まれた祭礼・芸能が今も受け継がれています。

豊かな自然の恵みを楽しみ、時に雪害や風水害等の災禍を乗り越えながら、山地と盆地それぞれの環境を活かした生活を育んできました。

地形や化石には、大地の成り立ちを示す太古の記憶が刻まれています。山地や河川が紡ぐ豊かな自然環境は、大野の歴史文化の基盤であり、美しい自然景観を生み出しました。

### 文化財の状況

大野市には、文化財保護法、福井県文化財保護条例、大野市文化財保護条例に基づく指定・登録文化財が計 143 件あります（令和 3 年 3 月時点）。国指定が 4 件、国登録が 15 件、県指定が 18 件、市指定が 106 件となっています。

未指定文化財について、大野市では、独自の制度として「おおの遺産」を創設し、地域に根付いた年中行事や伝統芸能、風習の中で現時点では 19 件を認定し、保護を図っています。

その他、既存の文献資料やワークショップ等からも未指定の文化財を収集しています。



国登録文化財 南部酒造場店舗  
(越前おおの観光ガイド HP より)



おおの遺産 稲郷里神楽  
(ふくい四季のしあわせ綴り HP より)

## 大野市の文化財の保存・活用に関する課題と方針

### 各課題

#### 文化財の保存に関する課題

- 住民人口の減少による文化財への影響
- ・文化財保護意識の低下、後継者の減少
  - ・歴史的建造物等の管理放棄、毀損や滅失
  - ・地域の防犯・防災対応の弱体化

#### 調査研究に関する課題

- 市内の歴史文化を物語る貴重な文化財の保護
- ・文化財の内容調査
  - ・文化財の価値把握の調査

#### 活用に関する課題

- 現在の活用は、限定された施設や文化財がメイン
- ・様々な文化財について活用方法の検討

市内の文化財について系統的、計画的な調査を進め、文化財の価値の把握と掘り起こしを進める。

文化財の価値に基づき、指定文化財の上位指定化ならびに未指定文化財の指定化や「おおの遺産」認証等を行い、文化財の保護措置を講じる。

防犯・防災に向け、減災・防災への意識の醸成とともに、災害復旧に向けた体制整備やアーカイブ作成を進める。

児童・生徒の郷土愛および文化財愛護意識の醸成に向け、本市の文化財を授業等に取り込んだ教育プログラムの作成を関係機関とともに検討する。

市民等の本市文化財に対する関心や保護意識の醸成のため、多くの方々が楽しく文化財に「見て・触れて・学べる」機会の創出に向けた検討を進める。

地域の歴史文化を色濃く反映する無形民俗文化財の保護に向け、映像等による記録化を進めるとともに周知化に向けた検討を進める。

地区ごとに文化財を観光等に活用するため関係機関と調整を進めるとともに、文化財の広域的な保存・活用に向け、隣接市との取り組みを検討する。

### 保存・活用の方針

## 関連文化財群

**関連文化財群とは**、指定・未指定を含む有形・無形の多種多様な文化財を、**歴史文化の特徴に基づく関連性（ストーリーに沿って、一定のまとまりで捉えたもの**です。大野市の歴史文化を物語るうえで欠かせない要素である主な文化財の集まりを、関連文化財群として設定しました。

### 人と地域をつなぐ「交流の文化」

#### <1>原始・古代の人々の営み

周囲を山々に囲まれ、森林や河川から豊かな恵みをいただく山紫水明の地「大野」が、古くより人々の生活する場となっていたことが、縄文時代草創期から古墳時代までの遺跡から確認することができます。

##### 主な構成要素



山ヶ鼻4号墓の壺  
（「図説福井県史」より）



北御門古墳

#### <2>町や村に暮らす人々の交流

山々に囲まれた盆地である大野は、交通の要衝であり、美濃街道を通じた交流が盛んに行われてきました。また、山と里の交流が営まれた七間朝市や、農作業に関連したしぐさ踊りなどの民俗芸能は、今も住民の手で続けられています。

##### 主な構成要素



七間朝市  
（ふくい四季のしあわせ綴り HP より）



しぐさ踊り  
（大野市 HP より）

#### <3>華開く「進取の気象」

江戸時代後期の藩主・土井利忠は、藩校「明倫館」を開き、藩士だけでなく町民にも学びの場を開きました。また、藩士内山兄弟らと共に、藩営病院での種痘の実施や、蝦夷地開拓、洋学振興など、先進的な諸施策を打ち出しました。このような、古き良きものを活かし、新しいことにも挑戦する「進取の気象」は、大野の市民性として今でも受け継がれています。

##### 主な構成要素



旧内山家住宅  
（大野市 HP より）



土井利忠公

### 大野城築城から始まる「城下町の文化」

#### <4>戦乱の時代と大野盆地の城郭群

交通の要所であった大野の地は、中世以降戦乱の舞台となりました。鎌倉時代末期、この地に拠点を置いていた淡河右京亮時治を皮切りに、室町時代には越前国の守護斯波氏、下克上により斯波氏を追いやった朝倉氏に支配され、軍事的・政治的に重要な拠点であると考えられていました。

##### 主な構成要素



亥山城跡



朝倉義景墓

#### <5>大野城の築城と城下町の形成・発展

朝倉氏滅亡後に、織田信長の家臣金森長近の領地となり、大野市のシンボルである越前大野城が築城されました。また、併せて行われた城下町の整備は、現在の市街地の原型となっています。江戸時代になりさらに発展した城下町の名残は、今も古い町並みや地割、地名、武家屋敷等から感じられ、「都市景観 100 選」にも選定されました。

##### 主な構成要素



越前大野城



七間通りの景観

### 今も息づく多様な信仰形態

#### <6>地域に息づく多様な信仰形態

大野の周囲を囲む荒島岳や経ヶ岳、飯降山等の山々は、古くから信仰の舞台として多くの人々に親しまれてきました。山岳信仰や浄土真宗などが広がり、これらの信仰に関連する社寺や絵画、仏像、様々な信仰の形として行われた祭礼行事は、今も大切に受け継がれています。

##### 主な構成要素



南専寺 庭園



荒島岳  
（越前おおの観光ガイド HP より）

#### <7>受け継がれる芸能

大野には、日々の生活の中から生まれた「小山鉦踊り」や祝祭芸能の面をもつ「御前踊り」、平安時代に始まったといわれる「篠座神社の里神楽」等、様々な性格を持つ多くの芸能や歌謡が伝わっています。

##### 主な構成要素



木本区初午だんご撒き  
（ふくい四季のしあわせ綴り HP より）



篠座神社の里神楽  
（ふくい四季のしあわせ綴り HP より）

### 自然と共に生きる「暮らしの文化」

#### <8>自然の恵みと暮らし

古来より、大野の人々は自然と向き合った暮らしを営んできました。豊かな山林資源や鉱物資源、水環境は、炭焼き等の文化や羽二重等の産業製品を生み出し、人々の暮らしを支えました。一方で、地形に起因する豪雨や大火等の自然災害も多く、冬期の大雪は建築様式に影響を与え、独自の景観を生み出しました。

##### 主な構成要素



旧橋本家住宅  
（大野市 HP より）



芹川清水  
（越前おおの観光ガイド HP より）

#### <9>食の営み

大野の気候風土は、「食」によく表れています。冬期に雪に閉ざされる山間部では、漬物などの保存食、稗や栃などの救荒食料が食べられてきました。また、湧水は豊富な盆地内では、川魚の甘露煮や唐揚げ、半夏生の鯖、そばなどが郷土の味となっています。この自然と密着した郷土料理や食文化が、今も残されています。

##### 主な構成要素



半夏生さば  
（越前おおの観光ガイド HP より）



上庄里イモ  
（ふくい四季のしあわせ綴り HP より）

### 大野に残る「太古の記憶」

#### <10>化石が語る大地の歴史

大野には大地の歴史が多く残されています。「阪谷の伏石」からは、盆地を囲む山々はかつて火山であり、約 100 万年前に経ヶ岳から泥流が流出したことがわかります。また、希少なアンモナイトなど、古生代から中生代の化石が多く産出しており、当時のアジア大陸東縁の海と陸の様子がそのまま記憶されています。

##### 主な構成要素



阪谷の巨石群（伏石）  
（越前おおの観光ガイド HP より）



ペリスフィンクテス・マツシマイ

#### <11>山と盆地の豊かな自然環境

豊かな自然環境は、大野市の歴史文化の母体となっています。大野市は、大野盆地とその三方を囲む山地からなり、盆地内には四本の河川が平行して北に流れています。この山地や河川が紡ぐ美しい自然環境からは、豊かな植生や生態系、大野固有の美しい自然景観が生み出され、人々に大きな影響を与えました。

##### 主な構成要素



白山神社のカツラ  
（越前おおの観光ガイド HP より）



九頭竜湖  
（越前おおの観光ガイド HP より）